

令和元年 11月 22日

11月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では台風、大雨の影響で原木生産が遅れ、入荷は少なくなっている。日光・八溝地区の林業地帯で林道、作業道が壊され、車が入れない箇所が多くある。新材に切り替わり、製材業者の買付が良くなっている矢先に災害が起こり、入荷不足から活発な荷動きになっている。原木価格は全般的に値上がりしている。

群馬県でも台風被害で林道が崩れて山に入れない。特に県西部、埼玉県秩父、長野県東部の被害が深刻である。原木の土場在庫はゼロで毎日の集荷のみである。製材量は回復しているが、生産品目に偏りがある。地場需要は低調、災害の影響で工事規模が縮小した現場も多い。土木用材の見積りや引き合いはあるが、杭等の原木が少なく厳しい状況。製品価格は低位安定。小売は値を崩さず、一部注文材は値上げの方向にある。

2. 米材

米加産地では天候自体は順調だが、カナダ州有林の立木価格の上昇で伐採が抑制され、出材は全体的に低調である。カナダ私有林最大手の夏場 1 ヶ月の伐採休止もあり、カナダの港頭在庫は低水準となっている。米国最大手ウェアハウザーは 11 月積み以降、対日価格の非公表を決定し、米材原木の指標価格が無くなった。産地では製材工場の在庫積み上げ時期となり、原木価格は上昇している。一方、欧州産 RW 平角の価格下落を背景に値下げを主張する日本側の構図は前月と変わらず。ランダムレンジス紙発表の 15 種平均価格(11/1)は\$370/Mで9月末に比べ0.8%アップ。原木価格の高値が続いており、現地からのオファー価格は思ったより下がらない。SPF は現地価格や生産量減少の影響により若干の値戻しとなった。なお、カナダ製材最大手の Western Forest Products 社は依然ストを継続中である。

9月の原木入荷量は 151 千 m^3 と一転して低調、1~9月累計で 1,860 千 m^3 (前年同期比 5.7%減)。出荷量は 183 千 m^3 、1~9月累計は 1,852 千 m^3 (同 5.1%減)、在庫は 175 千 m^3 と再び 1 ヶ月割れになった。国内製材工場の稼働は引き続き順調だが、欧州産 RW 平角の価格下落に引きずられ、11月に入って、国内

米マツ製材最大手が 2,000 円/m³程度の値下げを発表した。東京木材埠頭の 10 月入荷は 18 千 m³(前月比 0.9%増)、出荷は 22 千 m³(同 11.2%増)、在庫は 42 千 m³(同 8.3%減)。

3. 南洋材

サバ州では徐々に雨季となり、原木輸出再開の話も消えて伐採は非常に低調である。サラワク州では森林認証 (MTCS) を取得したシッパーは個別に輸出枠を 40%まで取得でき、輸出量が増加している。インド向け船積は 9 月頃から大幅に増加したが、インド市場では既に供給過多で市場価格は下落しており、伐採から撤退する業者も出ている。PNG 政府は 2020 年に原木輸出禁止を公約していたが、輸出枠を設定し、毎年 10%ずつ輸出量を削減していく模様。11 月原木入荷予想は約 12 千 m³。フリー板は市況低迷により入荷は減少。

4. 北洋材

シベリアでのアカマツ原木減、品質低下に変化はないが、価格が良いこともあり、対日向けアカマツ野縁 (30×40) の供給量は比較的安定している。アカマツ完成品の産地価格は上級グレード\$550 超えを唱える勢いだが、日本側は在庫増で静かな状況。東京、川崎の在庫増によりアカマツ野縁の不足感は一時的に無くなったが、本格的な供給回復には来年度までかかるので、再び品不足になる可能性もある。現地挽きアカマツ原板は各社在庫増で買い気はなく、冬伐り原木からのオファーを待つ状況である。国産完成品は現地挽き製品の値上げに伴い、順次値上げを実施しているが、なかなかコストには追いついていない。11 月予想の原木入荷、出荷とも 5 千 m³、在庫は 18 千 m³。製品入荷量(東京+川崎)は 18 千 m³、出荷 20 千 m³、在庫 33 千 m³。

5. 合板

合板用原木について、国産材はスギがやや少なく、東北のカラマツは高値張り付きのままである。ロシア材は冬場に向かって出材が不透明になっている。米材は強含みで出材も限定的である。南洋材は底値を脱し、少し値上がりしている。

9 月の国内合板生産量は 28.0 万 m³と高水準、うち針葉樹合板は 27.0 万 m³。出荷量は 27.3 万 m³、在庫量は 13.7 万 m³、うち構造用合板が 10.8 万 m³となっている。針葉樹合板の価格は台風の影響で被災地付近から引き合いが強く、引き締め感が強くなっている。メーカー在庫が少ないため、配送に時間がかかり始めた。長尺の構造用合板は逼迫感が続いている。輸入合板は台風の影響で荷動きが少し回復し始めたが、先行きは不透明である。9 月合板輸入量

は18.7万m³と今年二番目に少ない。とくにマレーシアからの輸入が極端に低水準で、インドネシアも比較的少ない。インドネシアでは降雨が少なく原木輸送が困難になっている。原木品質の低下で良材の入手が難しくなっている。マレーシアでは原木在庫は問題ないが、先行きタイトになる見込み。

6. 構造用集成材

11月のラミナ入荷は増加。各社とも例年並みにラミナを確保。ラミナ価格は10月を下限值とし、11月は若干上昇した。日本向けの各種製品価格がジリ安基調で推移し、現地工場によっては採算割れが目立ち始め、北欧勢を中心に減産の動きが強まってきた。RW平角は前回横ばいの400ユーロ/m³程。輸入集成材は減産シフトの工場もあるため、第1・四半期以降は提示数量が減る可能性もある。

7. 木材チップ

製紙用、バイオマスボイラー用双方の需給状況を見ながら生産に当たっている。建廃燃料は依然として過剰在庫の状態が継続している。チップ針葉樹原木の入荷は例年並み、広葉樹原木は積極的な集荷を実施している。燃料用は建廃を主原料とする大型バイオマス発電所等が稼働し始めており、先行き需給は引き締まるものと見られる。製紙用針葉樹チップは在庫量が多く、また燃料用も相変わらず在庫が多いが、出荷量は徐々に回復傾向にある。

8. 市売問屋

10月は台風と雨の日が多く、国産材、外材構造材とも動きが悪い。造作材も国産材は良材を使う場所が限られ、量的に動かない。外材造作材はムク材よりも積層材を使う場所が多くなった。台風被害の家屋修繕はしばらく続くと見られるが、一戸ごとに使用材料が異なるため、必要材の当用買いになっている。

9. 小売

消費税増税前に多少荷が動いたが、その後は天候不順等で動きは良くない。スギ、ヒノキ構造材とも大きな変動はなく保合い。外材は土台や柱、梁などリフォーム向けが少量ながら動いている。スギの貫、胴縁に品薄感がある。米ツガ(45×90)の入荷が少なく、再び品薄が予想され強含み。北洋アカマツ(30×40)は相変わらず集荷に苦労しており強含み。国産針葉樹合板は全体に入荷量が少なく、先行き供給がタイトになることが心配される。関東近県の台風被害による資材の動きはホームセンターではあるが、都内小売店ではあまり聞かれない。国産材産地では廃業する製材工場が増えており、首都圏向け供給量が懸念される。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	↘	→	↘
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	↗	↗	→

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	↗
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	↗
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↘
			米マツ桁角 (GR) Std&Btr S4S 4・1/8" 13'	↘
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	→
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	↘			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級 アカマツ (KD) 16×40上級	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↘
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ スギ 無化粧 JAS 5プライ	↘
		//	10.5×10.5×2.98m	↘
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6 タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
	欧州産	//	型枠 12.0mm厚 3×6 針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→